

乙 第 号

中田佳世 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	佐伯圭吾
論文審査担当者	委員	教授	長谷川正俊
	委員(指導教員)	教授	嶋緑倫

### 主論文

Childhood cancer incidence and survival in Japan and England: A population-based study (1993-2010).

がん登録データを用いた、小児がんの罹患率・死亡率の日英比較（1993-2010年）

Kayo Nakata, Yuki Ito, Winnie Magadi, Audrey Bonaventure, Charles A. Stiller, Kota Katanoda, Tomohiro Matsuda, Isao Miyashiro, Kathy Pritchard-Jones, Bernard rachel.  
Cancer Science. 2018 Feb;109(2):422-434.

## 論文審査の要旨

わが国の小児がん生存率について、都道府県別データを用いた分析が散見されるものの、わが国の代表データを用いた報告はない。本研究はわが国の地域がん登録データを用いて小児がんの罹患率と生存率を算出し、英国がん登録データと比較したものである。我が国と比べて、英国のホジキンリンパ腫、ユーイング肉腫、ウィルムス腫瘍の罹患率が高く、疾病発症の遺伝的背景を示唆する先行研究と一致する結果であった。1999年から2010年にかけて、わが国の小児がん罹患率の減少がみられ、この減少は神経芽細胞腫の罹患率低下によるものであることが本分析から明らかになった。同腫瘍のマスクリーニング終了によるものと考察された。英国と比べて、1993年のわが国の横紋筋肉腫の生存率は低かったが、2004年にかけて英国と同水準まで改善を認め、有効な化学療法が普及を反映するものと考えられた。我が国の代表データを用いて小児がん生存率を初めて検討した新規性は高く、検査法や治療法の推移を評価した重要な研究である。公聴会では地域がん登録データの限界点や、がん登録の重要性について具体例を挙げて適切に議論しており、すべての審査員が適と判断した。

## 参 考 論 文

1. Comparison of survival of adolescents and young adults with hematologic malignancies in Osaka, Japan.  
Nakata-Yamada K, Inoue M, Ioka A, Ito Y, Tabuchi T, Miyashiro I, Masaie H, Ishikawa J, Hino M, Tsukuma H *Leuk Lymphoma*. 2016;57(6):1342-8
2. Cancer incidence, survival, and mortality among adolescents and young adults  
Ries L, Trama A, Nakata K, Gatta G, Botta L, Bleyer A. *Cancer in Adolescents and Young Adults*, Springer International Publishing, 2016, Switzerland, 7-42.
3. AYA (adolescent and young adult) 世代のがんの疫学と医療の現状，問題点について  
中田 佳世，井岡 亜希子，宮代 勲，松浦 成昭 *日本小児血液・がん学会雑誌* 第 52 卷第 3 号 Page258-262 (2015.03)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに小児科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 31 年 3 月 5 日

学位審査委員長

疫学

教授 佐伯圭吾

学位審査委員

総合病態放射線腫瘍学

教授 長谷川正俊

学位審査委員(指導教員)

発達・成育医学

教授 嶋緑倫